■開設年度	■開講部局
2011	共通教育

■科目名
近現代日本の公共政策

■英語科目名
Public Policy of modern Japan

■前後期	■開講区分	■科目形態
後期	毎週	講義
■単位数	■大分類（科目）	■中分類（分野）
2	教養科目	分野2

■受講学部学科
全学部

■担当教員	■担当教員所属
吉田健一	
■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
099‐285‐3756	k5621643@kadai.jp

■オフィスアワー（授業時間外の対応）
【オフィスアワー】毎週水曜日午後　【メール】　【授業後】 事前に連絡を頂ければ、正規のオフィスアワー以外の時間であっても対応致します。

■共同担当教員

■キーワード1	■キーワード2
視野・判断力・探求能力	

■授業概要（目的・内容・方法）

本講義では我が国の明治以降の教育・福祉・労働・雇用政策の変遷をみる。そして、今の社会問題の原因を表層ではなく、根本的なレベルで突き止める感性、視野の広さを見に付けたいと思う。周知のように我が国はいわゆる少子・高齢化が進み、またバブル崩壊後、20年以上も経済の不振にある。今の大学生の諸君にとっては、生まれた時から「今のような世の中」であっただろう。低成長、不況、就職難、雇用慣行の破壊などが当然の世の中に生まれたので、今のような社会が初めからあったように思うかもしれない。そして、将来への不安や絶望感をもっている人もいるかも知れない。だが、現在のような社会になったのは、せいぜい、ここ20年くらいの事であり、その前には戦後の高度成長期があった。更にその前には敗戦があり、その前には維新から大正デモクラシーを経て、戦争期があった。近代・現代の日本は目まぐるしく社会が変化しており、現在、我々が当然と思って享受しているものとてさほど長い歴史があるものとは限らない。この講義では政策の変遷を通して、日本の近現代を知り、これからの社会を構想するヒントを得る事を目標にしたい。そして、現在、苦境にある人にとってはそれは個人の責任のみに起因するものではないという事も理解してもらいたい。

■学習目標

・日本が近代化してからの公共政策の歴史の概要を知る。
・特に教育・福祉・労働政策の変遷を知る。
・今日の様々な問題がいつ頃から顕在化し、過去にはどういった問題が存在し解決されて来たかを知る。
・短期的な視野で社会を見るのではなく、10年、20年、出来れば半世紀くらいの視野で社会の変遷を見る事の出来る人間になる。

■授業計画（１５回に分け、回数、授業内容、自学自習等）

1.はじめに―近代日本の歩み―
2.公共的なるもの、公共政策とは何か？
3.教育政策の歴史－１（明治）
4.教育政策の歴史－２（明治－大正）
5.教育政策の歴史－３（昭和戦前）
6.教育政策の歴史－４（戦後）
7.労働・雇用政策の歴史（明治）
8.労働・雇用政策の歴史（明治－大正）
9.労働・雇用政策の歴史（昭和戦前）
10.労働・雇用政策の歴史（戦後）
11.福祉政策の歴史（明治）

12.福祉政策の歴史（明治ー大正）
13.福祉政策の歴史（昭和戦前）
14.福祉政策の歴史（戦後）
15.まとめ

■受講要件	■成績の評価基準
特にないが、日本の近現代史と教育、福祉、労働・雇用分野の政策に関心がある事が望ましい。	3分の2以上の、出席を前提として （1）毎回のフィードバックシート（50%） （2）期末レポート（50%）を総合的に評価。 期末レポートの提出要件は3分の2の出席とする。

■教科書	■参考書
受講者には、受講登録後、授業で使う講義用テキストの冊子を配布する。	『日本労働運動史』（1945年～2003年）竹田誠・現代文化研究社・2003年、『労働の戦後史』上・下・兵藤つとむ,『労働問題入門』真田是・日本評論社・昭和43年、『日本福祉制度史ー古代から現代までー』百瀬孝・ミネルヴァ・1997年『公益の追求者・渋沢栄一』渋沢研究会編・山川出版社・1999年

■その他